

かつての産業革命に匹敵する今日の電子革命。IT技術を駆使して仕事は高速処理されていく。味気ないという人には、ツイッター等々も用意されつづやきや社会的自我さえ電子媒体で処理される。そんな時代だからこそ、人が直接会う場面は特別な価値を帯び、人は集うという行為に工夫を凝らすようになっていく。さらに経済のグローバル化と電子革命は、言語の壁を越える職業人をかつてない規模で生み出し、21世紀は国際会議の世紀になりつつある。

かつて、大量の人が国境を越えて外国人と遭遇する場面は戦場であった。21世紀は、それが国際会議の場となろう。かつては戦場で決まることが、これからは国



際会議の場で決まってくる。政府間会議のことばかりではない。社会や学問の問題意識を共有する国際会議、学術の会議や民間の会議も含め、世界はいま国際会議という手法で前進する時代となった。

たゞしは毎年1月末に

コラム 知恵の輪 グローバル 第1回

国際会議は平和のための総合ビジネス/ MICE(マイス)の推進 日本コンgres・コンベンション・ビューロー(JCCB) 会長 猪口 邦子

知識集約の時代であり、学問分野はそれぞれ隆盛を極め、学会の世界大会等々が毎日、世界のどこかで行われている。世界の会議はジバンクでやろう！と日本も官民あけて国際会議誘致に競争力を発揮すべきである。

また誘致に成功することの効果は大きい。参加者は世界の職業人なので後に観光や会議を呼込む乗数効果が期待でき、また国際会議は観光一般より不況の影響も受けにくく、地域経済や地元の人材育成への刺激も見込めよう。

そのような効果をもたらすために、国際会議を広義に捉え、MICE(Meeting, Convention, Incentive travel, Exhibition)を推進するMICE推進協議会が国土交通省にて年末に開催された。従来の国際会議のみならず、展示会や企業表彰ツアーなど優れた職業人の来日効果に着目し、日本の総合力を高めようとする動きである。会議と展示のクロスオーバーなど付加価値の高い催しを推進する機会にもすべきである。

スイスの寒村で行われるダボス会議。日本も含め各界の首脳や大臣が競って参加し、企業トップやNGO関係者らが集う。政府の交渉会議や国連会議でもないのに、ダボス会議は国際世論を作り、その年の各国の政策の優先事項を穏やかに囲

い込む効果があると言われる。温暖化問題の主流化もダボスを舞台になされていった。同時に、これは地域起しの優良事例であろう。一週間の国際会議が地元経済にもたらす効果は巨大であり、忘

れ去られた田舎町は世界の名所へと変貌し、一年中、観光客が絶えない。ダボス型会議を自国で育成するまではいかなくても、各国はいま、各種の国際会議の誘致に必死である。21世紀はIT技術や展示技術の

(政治学博士)